

# 高次脳機能障害者 支援を

徳島大病院 四国の医師ら課題探る

高次脳機能障害について理解を深めたワークショップ―徳島大病院



大脳の一部を損傷することが原因で言語や記憶などの機能が低下する高次脳機能障害への理解を

深める「高次脳機能障害者支援ワークショップ・イン四国」が2日、徳島大病院であり、患者や家族、医療関係者ら約120人が参加した。徳島大大学院ヘルスバ

イオサイエンス研究部の白山靖彦教授が講演。支援体制の現状について、全都道府県に拠点機関が設置されていることなどを説明した。一方、社会復帰施設の不足や相談支援体制の未確立といった課題も指摘。「こんな支援でどれだけ効果が上がったかを数値化することで、国などに支援策の充実を訴えやすくなる」と強調した。

この後、四国4県の医師や患者の家族会代表者らが、活動事例や課題を発表。県高次脳機能障害支援コーディネーターの中村和巳氏は、患者が社会復帰する際の就労・就学支援が円滑に進まないケースがあるとして「支援機関と、企業や教育機関との連携が不可欠」と訴えた。

(石津 遼)